

最優秀賞

住宅の部

建築主：秘匿

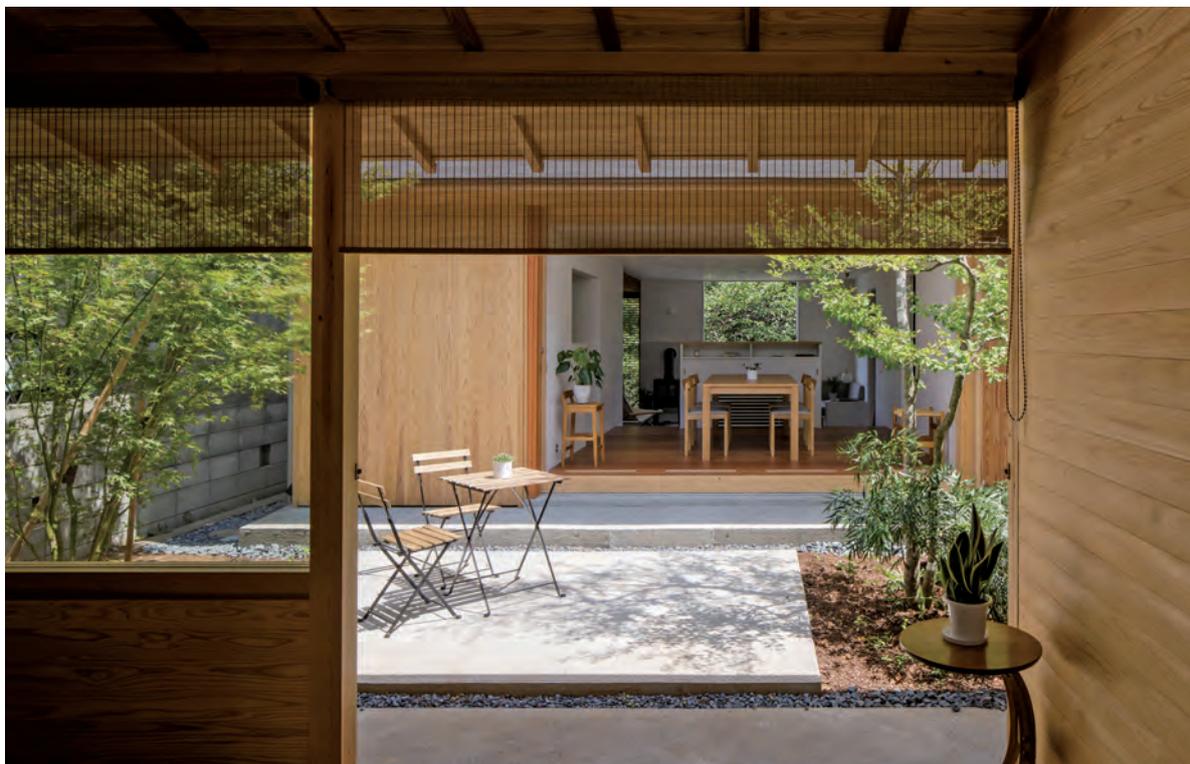
設計：鈴木雅也建築設計事務所

施工：有限会社タケワキ住宅建設

所在地：松戸市

～自然と人の生活の結びつきで居場所をつくる～

仲井町の家



北の間から中庭を介して中の間、南の間と公園の緑を眺める。

公園に隣接する設計者の自邸である。中庭を挟むように道路側に小さな平屋の離れがある分棟形式である。

街への圧迫感をなくす佇まいが、北側の前面道路の明るさを増している。中庭は一般的な配置である隣家への通風や採光にも思いがけず寄与しているだろう。逆に、公園側にはかなり迫る配置となるが、広い公園の前に、フェンスに囲まれた地盤レベルの庭を作るのではなく、FLよりも高い位置に濡縁を設けることで公園全体を貸し切るような潔い設えである。

通り側から住宅を見たときの、小さな屋内、中庭(小さな屋外)、大きな屋内、公園(大きな屋外)という層状の重なり風景が細やかに設計されている。具体的には、陰影の変化(陰影の階調が映える白い壁、陰影を邪魔しない開口や壁端部の納まり等)、床高の変化とその変化に参加する什器たち(踏み台を兼ねる収納、設備を兼ねる収納、重心の低いペンダント照明、高さを抑えたストーブ裏のCBの腰壁等)、窓の種別の変化(眺望/採光/換気の役割分担をする窓、中庭に面す

る窓を特に大きく、という操作等)など、さまざまな建築的操作によって、風景を豊かにし、居場所を作り出している。それ以外にもトップライトから光の移ろいを感じられるささやかな休憩スペースなど、自然と人の生活の結びつきが丁寧に設計されている。

離れは現在仕事場として利用されていて、今後公私両用での利用が可能な状態とのことである。広さや前面道路とのつながりに、公としての活用方法にどれほどの選択肢が生まれるか、今後の展開に期待したくなる建築である。(海法 圭)



高台下の公園から外観を見る。



道路から母屋へのアプローチ。

(撮影全て:鈴木 研一)